

Kanagawa East  
Rotary  
Club



# 神奈川県東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2021-2022年度 第31週報 No. 2173 2022年(令和4年)5月28日 第2173回 例会記録 6月3日発行

### 本日〈6月3日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 週替わり弁当
- ◆ 卓 話 「しっぽの生えた仲間  
～こども病院で活躍するファシリテッドッグ～」  
認定NPO法人シャイン・オン・キッズ ニーリー美穂 様  
(紹介者 茂木 知子 会員)



写真提供 小池 将夫

### 移動例会・『春の家族会』

～富士サファリパーク・御殿場高原～

**司 会** 馬場 佳子 副幹事

**点 鐘** 小山 市康 会長

**ゲスト紹介** 崔 景兌 様 (米山奨学生)

**出席報告** 北村 大輔 出席委員長

会員総数	49名	(30+19)名	
出席会員数	21名	(16+5)名	
出席率	60.00%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	91.11%	前々回補正後	97.83%

**特別行事** ◆米山奨学金贈呈



米山奨学生 崔 景兌 様

2021-2022年度 R I 会長 シェカール・メータ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

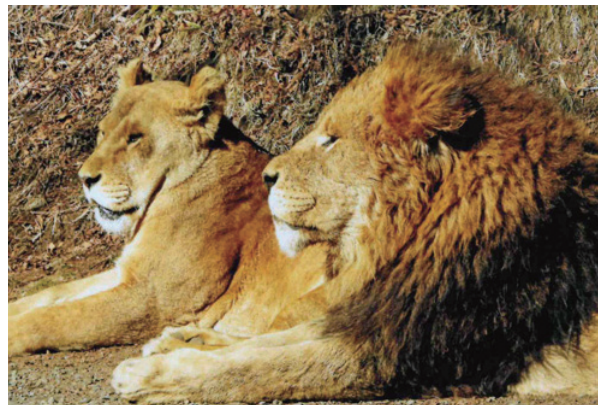
第2590地区 ガバナー 小倉 正

会 長	小 山 市 康	会 計	渡 邊 淳
会長エレクト	赤 堀 伽寿一	副 会 計	長 野 毅
副 会 長	横 溝 亘	S A A	古 澤 一 憲
副 会 長	加 藤 仁 昭	副 S A A	加 野 亮 一
幹 事	友 添 辰 哉	副 S A A	吉 田 隆 男
副 幹 事	馬 場 佳 子	クラブ会報	清 水 茂 夫

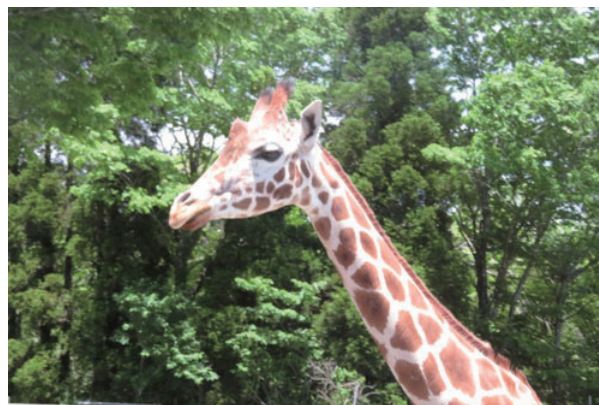
**例会日** 毎週金曜日 0:30～1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)  
**例会場** ホテルキャメロットジャパン  
**URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>  
**E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

**事務局** ホテルキャメロットジャパン内  
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555  
**創立記念日** 昭和51年5月29日

✿ 春の家族会 ✿



◆富士サファリパークにて



表紙の写真 T31



入梅入りが近づき、我が家の庭の片端の「紫陽花」がピンクの美しい花を咲かせました。ところで、花として鑑賞している部分は正確には花ではない…ご存じでしたか？装飾花でガク片が変化したもので、花粉を運ぶ昆虫を引き寄せるもの。本当の花「真花」は装飾花の中にあります。是非ご覧ください。

【写真提供 小池 将夫 会員】





◆御殿場高原 時の栖にて例会及びランチビュッフェ



◆小田原市 尊徳記念館にて



尊徳が誕生してから16歳になるまで実際に住んでいた家

<二宮尊徳(金次郎)の生涯>

**一家離散** 金次郎は天明7年(1787)に栢山村(小田原市)で生まれた。裕福な、幸せな家庭であったが、酒匂川の氾濫や父の病気で多くの田畑を失い、生活は一変していった。特に、父を失ってからは正月に家々を回る神楽に出す工賃の金もないほど、極貧と屈辱の日々だった。そういう中、心労の母も病死し、金次郎は伯父万兵衛家に引き取られ、弟2人は母の家に預けられ、金次郎家は離散した。



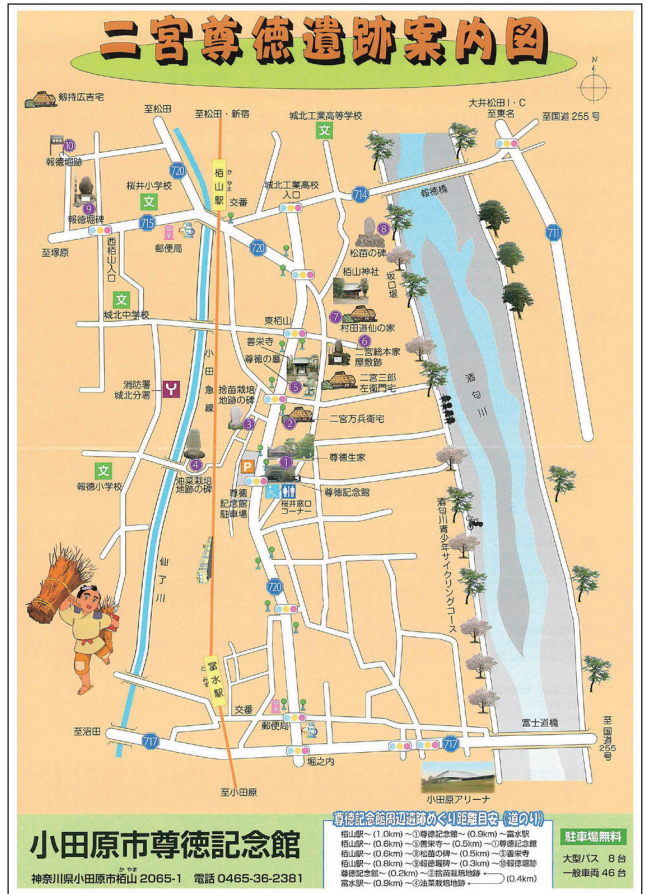
**自家再興** 伯父の家に世話になっていた時、自家の再興を強く心に誓う金次郎は2つの重要な教訓を実体験している。捨ててあった稲の苗を荒地に植え、稲1俵を収穫。自らの労力でコトコツ小を積めば、必ず大になること(積小為大)、自然の恵みは無尽蔵で、人の働き次第で財産を生み出すことができること(働き次第で財を成す)、の教訓である。金次郎はこの教訓をしっかり受け止め、自家再興のため日夜精励した。離散から8年後、田畑1町4反の人並みの百姓となり、中古ではあるが、家も建て、遂に再興を果たした。その間も金次郎は、苦勞して蓄えたお金で村の困窮者を助けたり、絶望した二宮一族の総本家再興のための基金を作ったりしている。

**藩主の抜擢** 金次郎は自家を再興すると、田畑を小作に出し、小田原藩の家老服部家に働きに出た。ここでも才覚認められ、借金に苦しむ服部家から家政再建を依頼された。31歳の時には人々の模範として藩主大久保忠真から表彰されている。金次郎は政々や武士の生活や藩の内情がわかってきて、武士の生活の教養策や年貢用の積の改正を藩に提案した。35歳の時、藩主にその実力が認められ、桜町領(静岡県浜岡市)の復興命令が下った。受命条件として金次郎が主張した、10年間桜町領主への年貢納額額の制限が認められ、家、田畑を処分し、一家で桜町領に移住することになった。

**桜町領再興** 桜町領において、多年にわたる重視、村役人の不正などで荒廃した人心の立直しは容易ではなかったが、徐々に金次郎の「心田開発」の効果は現われてきていた。しかし、金次郎の用事を善くない豊田正作らの妨害によって復興は全く進まなくなっていった。思い余った金次郎は用事で江戸に出たまま桜町には戻らなかった。各地を放浪した末、成田山新勝寺に籠り、21日間の断食をして、不動明王と対面し、自分を見つめ直した。一方、金次郎不在の桜町領では、豊田正作は罷免され、改めて金次郎の偉大さが確認された。精神的にも一層成長した金次郎が戻ると、その指導は領民に強く支持され、復興は順調に進んでいった。各地で餓死者を出した天保のききんも見事乗り切り、金次郎への信頼はますます深まり、評判は周辺の地域にも広がっていった。

**金次郎の苦悩** 小田原藩でも、藩主(忠貞)の命令で金次郎がききんの救急対策に当たったが、終わりを待たずに藩主(忠貞)は病死した。苦境を救われた村々では金次郎の指導を待望する声が高まっていた。新藩主(忠愍)は、前藩主の遺言もあり、藩財政の分度設定はそのままとし、村の指導だけを金次郎に命じた。藩財政の分度設定をせず、村の指導だけを優先すると、増収になり、藩財政は豊かになるが、年貢が増え、領民を苦しめる。金次郎は、あくまでも分度設定が先であることを主張したが、交渉は難航した。金次郎は悩み悩み、農民たちの熱意に動かされ、やむなく、一部の村の指導を始めた。金次郎を慕う領民の熱気は領内に見る見がかりを見せて行った。しかし、金次郎の主張を認めない藩上層部は、遂に小田原領内での金次郎の指導を一切禁止した。金次郎は、前藩主の墓前に額書き「私の力が足りませんでした」と涙ながらに謝罪したといわれる。

**報徳仕法、さらに拡大** 金次郎の指導する復興事業は、報徳仕法と呼ばれる独自の方法として形も整えられ、烏山藩・谷田部藩・下館藩・相馬藩など多くの地域から要請を受け、成果を上げて行った。さらに55歳の時、金次郎は幕府の役人に取立てられ、報徳仕法は幕府領にも広がっていった。66歳には徳川家康の御廟所のある日光御神所とその周辺約100ヶ村2万石の復興を命じられた。しかし、安政3年(1856)復興半ばで金次郎は69歳の生涯を閉じた。金次郎が創始した報徳思想は多くの人々に実践、研究され、現在に至っている。





## 親睦活動委員会 委員長 矢野 修二

春の家族会にご参加の皆様、朝早くからご苦勞様でした。皆様のおかげで天候にも恵まれ、良い旅ができたかと思いますが、いかがでしたでしょうか。親睦活動委員会としては、下見に行き、無理のないタイムスケジュールを組まして頂きました。

また、贅沢ではありますが、バスも余裕を持ったスペースをとらせて頂きました。バスの旅はいかがでしたでしょうか。バスの運転手さんもガイドさんも良かったかと思えます。その甲斐もあり、帰りもスケジュール通りに全員無事にホテルに到着して、ほっとしました。

親睦活動委員の皆様、お疲れ様でした。有難うございました。

## ロータリーニュース

### RI会長からのメッセージ

2022年5月

「Each One, Bring One」(みんなが一人を入会させよう)イニシアチブに積極的に取り組んでいただいているのおかげで、ロータリーの会員傾向が非常に好ましいものとなっていることをとても嬉しく思います。この勢いを失わないように、取り組みを続け、入会した全会員の維持にも力を注ぎましょう。来月には、ヒューストンでの2022年ロータリー国際大会で皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。今大会が素晴らしいイベントになると確信しています。

同じく、6月にヒューストンで最後の会長主催会議が開催されます。ロータリーの重点分野を中心に取上げた今年度の一連の会長主催会議は、出席者数という点でも、そこで出たアイデアという点でも、大きな成功を収めています。

昨秋にフィリピンで開催された会議では、「環境の保護」と「地域経済の発展」に焦点を当て、2,200人がオンラインで出席しました。ブラジルで開催された会議では、「水と衛生」およびそれが「疾病予防と治療」にどうかかわるのかに焦点を当て、600人以上が出席しました。その後には、モザンビークのマプトで環境、経済、平和に関する会議が開催され、対面式で約400人、バーチャルで約700人が出席しました。イタリアのベネチアで開かれた「経済と環境の調和維持」に関する会議には、600人以上が出席しました。これらの会長主催会議、そして世界各地への訪問を通じて、数多くのリーダーが私と面会し、ロータリーとの協力で同意してくれました。これには、モーリシャス首相、セーシェル大統領、パーレーン副首相、アルバニア大統領、コソボ大統領が含まれます。ロータリーは明らかに世界にインパクトを与えており、世界は私たちのリーダーシップを熱望しています。

ヒューストンでの最後の会長主催会議は、「平和のために奉仕する」と題し、ロータリーが長年リーダーシップを発揮してきた分野である平和に焦点を当てます。ロータリーでのすべての活動は、地域社会、国、そして自分自身の中で平和を培うための土台づくりとなります。

去る3月、大勢のウクライナ難民がポーランドに押し寄せる中、ロータリーが多大な支援を行っているのを私はこの目で見

ました。この取り組みのためにこれまでに何百万ドルもの寄付が寄せられ、ロータリーのプロジェクトが多大な変化をもたらしています。皆さまの惜しみないご寄付やご支援に対し、多くの人が感謝しています。住むところを奪われた人たちを間近で見るのは、とても心が痛むことであり、これはウクライナの人たちだけに限ったことではありません。イエメンでは悲惨な内戦が続いています。アフガニスタンでの人道危機も深刻化しています。武力紛争により、リビア、南スーダン、中央アフリカ共和国、モザンビーク北部、エチオピア、カメルーンといったアフリカの国々が影響を受けています。また、シリアとベネズエラでも深刻な難民危機が続いています。

ロータリーはいつでも、平和的な紛争解決を選び、時間と場所を問わず、可能な限り人びとに援助と癒しを提供しています。第二次世界大戦の終わりにも、ロータリーが国連創設を促し、世界での平和構築のために立ち上がりました。今こそ、私たちの使命を再確認し、世界最大の平和推進者としてのロータリーの役割を果たすときです。

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」の実践こそが、平和を推進するための最善の方法なのです。

ジェカール・メータ  
2021-22年度会長

## クラブニュース

### タウンニュースに掲載

タウンニュース神奈川区版 2022年(令和4年)6月2日号に、5月15日に実施した「岸根公園花壇花植え」の記事・写真が掲載されました。



次回〈6月10日〉の予定

「未定」